

## 高橋寿郎さんの思い出

奥谷 禎一

昨平成12年12月、年末になり年賀状の用意をしているところへ、高橋寿郎氏の奥様嘉代子様からご主人がなくなられたとのご挨拶をいただき、すっかり驚きまたがっかりしてしまいました。

戦後筆者が“新昆虫”の編集のお手伝いをしていた頃、神戸にアマチュアで大変な甲虫収集家がいるという噂を聞いたことがあった。その後篠山の兵庫農科大学に赴任し、森 為三先生が会長をしていた兵庫生物学会に入会させられ、機関誌“兵庫生物”で氏の報文に接する機会があった。しかし交通不便な当時では拝顔の機会はなかなかなかったが、昭和42年兵庫農科大学が国立移管になり神戸に移転してからは度々お目にかかるようになった。この交流の中の幾つかの思い出を記して、氏の霊を慰めたい。

兵庫昆虫同好会設立に当たって、事務所をお引き受け頂いたのは、地方大学の農学部の昆虫研究室で、よくその県の同好会を引き受けているが、アマチュアがとりつきにくいこと、研究室の永続性が保証できないなどの心配をお話したことではなかったかと記憶している。公式にお手伝い頂いたのは、昭和53年～54年(1978～79)に行われた環境庁の第2回自然環境基礎調査の昆虫の部が神戸大学に委託され、日本昆虫学会の全面的な応援を得て筆者が中心となって取り纏めを行った時、研究室のスタッフだけでは手が足らず、氏にはすっかりご面倒をかけた。次いで昭和56年に日本昆虫学会第41回大会を神戸大学でお引き受けしたとき、いろいろお力になっていただき、貿易センタービルで行われた懇親会のご手配をして下さったことも忘れられない思い出の一つである。

虫の話では、神戸という土地柄キベリハムシについては度々話題になったが、氏も私も引かれていたコガネムシの話題が多かった。糞虫ではタイプ以来採集されていないヤマトエンマコガネの話で、奈良産のものがHyogo(恐らく現在の神戸市内であろう)とされてしまったか、植生がすっかり変わり当時普通にいた獣(シカ?)がいなくなってしまったかなどたわいのない話をしていたところ、昨1999年の本誌27巻1号に124年振りの記録として姫路からの記事が出て驚いた次第である。そのほか明石市のキョウトアオハナムグリ、中国縦貫自動車道の加西サービスエリアのヒゲコガネ、垂水のダイコクコガネ、

摩耶山のオオチャイロハナムグリなどで、話題に困ることはなかった。なんといっても忘れられないのは、西神有料道路建設についてのアセスを手伝っておられたとき、厳冬期にハネナシナガクチキを発見され、どうも新種らしいと愛媛大学の宮武氏に送られ、確かめられたときに「こんな都会で新種が見つかるのでは、虫探しはやめられませんか」としみじみいわれたことである。本種は1982年松山産の近似種とともに新属新種として“四国昆虫学会誌”に発表された。

兵庫県はわが国昆虫学の開祖松村松年博士、兵庫農科大学を創設された森 為三博士などの昆虫学者を産んだばかりでなく、カミキリの関 公一氏やトリの小林桂助氏などのわが国有数のアマチュア研究者の育った土地柄である。その系譜を引くかのように高橋寿郎氏は県下の甲虫相を明らかにすべく、自らの採集物だけでなく先人の記録も集大成していった。大変律儀な方で、ご自分でまとめられた兵庫県の甲虫相に関する著作は、簡単な短報に至るまで、すべてに“兵庫県甲虫相資料”として番号が付けられ、最近のものは350を超えもうすぐ400の大体に乗るところで、その昆虫学会への貢献は多大のものであった。

ここに氏との交流の思い出を記し、ご冥福を祈る。

(OKUTANI TEIICHI

川越市霞ヶ関北町1丁目20-14)

## 高橋さんとの思い出

山口 福男

高橋さんが亡くなりました。いつでもすぐに会える先輩と思っていたのに、帰らぬ人になられてしまった。高橋さんとはムシだけで繋がっていたのに一度だってムシ談義をしなかった。高橋さんは神戸二中で一年先輩だった。私がムシに興味をもった頃の高橋さんはもう昆虫研究者への道を歩み始め、かなりの知識をもっておられた。私は研究会に入部するほど熱心ではなかったのでここで高橋さんとすれちがってしまいました。私がムシにのめりこみはじめた頃に

は高橋さんは卒業していた。

高橋さんのアマチュア昆虫学者としての活躍ぶりは学会誌や同好会誌などで承知していたが、出会いは意外に遅く昭和45年だった。当時私は農作物に多用されている農薬の環境への影響の情報を集めていて、このことについて神戸大学奥谷教授に相談したことから実現した。でもムシ仲間がムシ談義をする楽しい出会いではなく、固い話ばかりだった。次の出会いは日本昆虫学会の大会を神戸で開催するについての相談だった。それから兵庫県自然博物館設立準備委員会、自然保護指導員協議会など公式の会議で何回も顔を合わせる機会がありながら挨拶だけでムシの話にはならずじまい。ただ一度だけ1時間ばかり話す機会があった。兵庫県自然公園の見直し調査で昆虫部門を担当したとき報告書作成に高橋さんに文献等について助言を頂いて無事提出できた。このときもムシ談義とはほど遠い会話でしかなかった。結局のところ高橋さんと私は近くにいながらお互いに遠い存在だったようである。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

## 高橋寿郎さんの書齋

近藤 伸一

1999年12月4日高橋寿郎さんは永眠されました。高橋さんの最近の日課は、朝から晩まで書齋にこもり、文献調査と執筆の明け暮れだったようです。

あの日も執筆の途中で、疲れたため少し病院で治療を受け、すぐに戻るつもりで入院され、再び書齋に帰ることは出来ませんでした。

高橋さんのお宅には、きべりはむしの編集の打ち合わせのために何度か伺っていましたが、書齋に入らせていただいたのは、お亡くなりになってからでした。高橋さんは2階の全てを書齋に使用されていました。部屋は奥様のご配慮で、入院のために部屋を出られたそのままの状態で、机の上には書きかけの原稿と大量の完成原稿が残されていました。

愛用の机と最小限の本箱、窓際の顕微鏡、ストープ以外に家具らしきものは排除され、ふすまを取り除いてワンフロアーにし、床一面に、高さ80cm程に積み重ねられた本の山が並び、一見乱雑のようで、

必要な資料がすぐに取り出せるように、大量の文献を細分化し、合理的によく整理されていました。

押入れも文献が山積みされ、窓際の棚にも顕微鏡と並んで雑誌の山がそびえていました。

書籍の種類は、クラシック音楽と猫と昆虫が中心で、量からいえばほとんどが昆虫関係の書籍でした。昆虫関係の書籍の中には昆虫切手集まであり、昆虫に関するものは全て収集してしまおうという意気込みが見られました。

そして数十冊の分厚いバインダーが目を引きました。数十年にわたる高橋さんの研究成果が詰め込まれたもので、種ごとに文献の抜粋がびっしりと書き込まれており、このバインダーが高橋さん分身であり、打ち出の小槌でもあることが想像できました。

高橋さんはアマチュアとして、他に仕事を持ちながら、まさに一生をかけて県内の昆虫相の解明に尽くされました。これまでに発表された膨大な論文をみるとただ驚愕するばかりです。

残された未発表文献を早く発表することと、高橋さんのバインダーが有効に活用されるシステムを作ることが今後の我々の使命ではないかと思っています。ご冥福をお祈りいたします。

(KONDO SHINICHI)

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

## 故高橋寿郎さんの遺稿の取扱いについて 兵庫昆虫同好会事務局より

高橋さんは生前に兵庫県の甲虫に関する膨大な資料を収集され、多くの著作を残されましたが、なお未発表の原稿も多く残しておられます。未完成のものも多いのですが、兵庫県の甲虫に関する資料としては大変貴重なものなので、他誌で連載中のものはそれぞれの同好会等にお任せするとして、それ以外は「故高橋寿郎氏遺稿集」として兵庫昆虫同好会事務局による編集で「きべりはむし」通常号に掲載したいと考えています。かなりのボリュームがあるので、数回に分けての掲載としますのでご了承下さい。また、一部は故人の遺志で別冊としての発行も予定しています。さらに、本会に多大な貢献をされた高橋さんの偉業をまとめる意味で、事務局では著作目録を作成したいと考えていますので、合わせてお知らせします。